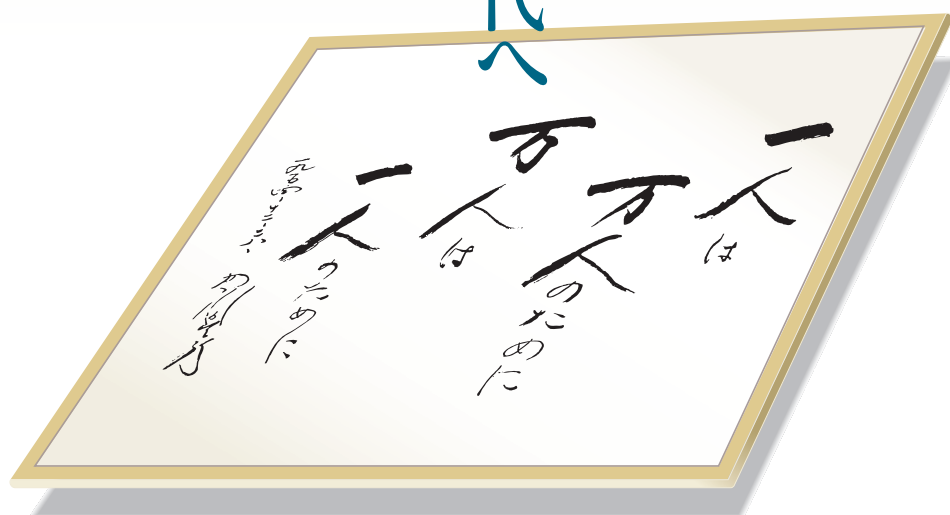




徳島県労福協 35周年記念誌

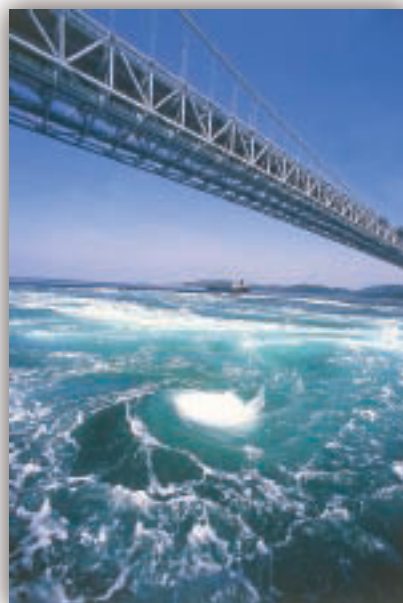
『協同』が輝く時代へ



社団法人 徳島県労働者福祉協議会

35年
のあゆみ

OTokushima ROFUKUKYO



社団法人 徳島県労働者福祉協議会

目 次

●ご挨拶	1
(社) 徳島県労働者福祉協議会 会長 久積 育郎	
●祝辞	2
労働者福祉中央協議会 会長 笹森 清 徳島県知事 飯泉 嘉門 徳島市長 原 秀樹 連合徳島 会長 小松 義明 四国労働金庫 理事長 足達 秀夫 全労済徳島県本部 本部長 川越 敏良 (財) 徳島県勤労者福祉ネットワーク 理事長 土井 五男 徳島県生活協同組合連合会 会長 阿部 和代 (敬称は略させて頂きました)	
●労福協設立の経緯	8
●結成からのあゆみ	10
●現在の事業展開	30
ライフサポート事業部	30
福祉サポート事業部	36
ジョブサポート事業部	39
賀川豊彦献身100年記念事業徳島プロジェクト	44
総務企画部&事務局	45
組織	48
●歴代役員名簿	51
●表彰者一覧	57
●編集後記	



(社)徳島県労働者福祉協議会

会長 久積育郎

発刊によせて

徳島県労働者福祉協議会結成35周年を迎えるに、今日まで徳島県労福協の運動に対して多大なご尽力、ご支援を頂きました皆様に心より深く感謝を申し上げます。

県労福協は全国に遅れること20余年、地方労福協としては46番目の設立ではありましたが、県内労働者福祉の中心として着実に歩んできた35年であったと思います。それは労働者福祉まつり、『ゆとり宣言』フェスティバルの開始、県下6地域労福協の設置、公労使三者構成による財団法人徳島県勤労者福祉ネットワークの設立などでした。とりわけこの10年は時代が求める労働者福祉として新たな事業展開が大きく前進しました。高齢者福祉分野における「なのはな介護支援センター」、若者の自立支援としての「若者サポートステーション」の開所、勤労者福祉ネットワーク事業としてのファミリー・サポート・センター、勤労者福祉サービスセンターの設立、地域労働者福祉の拠点としてのライフサポートセンターの設置などがあります。

特に雇用就労分野におけるジョブサポート事業は、仕事なんでも相談室（雇用労働相談）－就業支援センター（職業能力開発）－ジョブとくしま無料職業紹介所（職業紹介）による一貫した総合支援体制により、さまざまな就労阻害要因を抱えた社会的就職困難者の人たちの支援にも力を注ぎ、大きな社会的評価を受けてきました。同時にこの就労支援事業は労働者自主福祉の新たな展開として全国への拡がりも見せてきています。そして、その基本は多くのNPOや市民団体との連携による事業展開であり、その基礎は“新しい公共”を担う”共助のネットワーク”であります。

今、日本社会はその基礎であった地域・職場・家族などさまざまな社会的絆が崩壊し、格差社会、無縁社会、孤族などの言葉に現される混沌とした社会状況となっています。まさに“社会的孤立”問題が深刻な課題となっているのです。

県労福協は、35周年を節目として“人間の尊厳”を第一として人々が支えあう地域社会を再生させ、『協同』が輝きを増す社会へ向け、多くの皆様と共に歩んでいきたいと考えています。

そのためにも郷土が育んだ偉大な社会運動家であり“協同組合の父”である賀川豊彦先達の「友愛・互助・平和」の精神をしっかりと引き継ぎ、“一人は万人のために、万人は一人のために”努力し、実践し、飛躍するこれからの10年のスタートにしていきたいと思います。

皆様の尚一層のご指導ご支援をお願い申し上げ、ごあいさつとします。



労働者福祉中央協議会

会 長 笹 森 清

祝 辞

設立35周年という節目の年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

徳島県労福協が、設立以来さまざまな分野で勤労者の福祉の向上に向けた活動を展開され、とりわけ近年では、就労支援や未組織勤労者に焦点をあてたライフサポート活動の全県展開などに全国に先駆けて果敢にチャレンジし、着実に成果をおさめられていることを高く評価しております。歴代の役職員の方々をはじめ、労働者福祉運動の発展に尽力された関係者のご努力に心から敬意を表する次第です。

労福協は、戦後の廃墟の中から、労働組合や生協が組織の枠組みを超えて結集するところから生まれました。労働運動と協同事業が車の両輪となって、「貧困をなくそう」「労働者のための銀行、共済をつくろう」と、夢と情熱をもって世直し運動を行ったのです。貧困と格差が広がり、人と人とのつながり・絆が失われようとしている今、私たちはもう一度創生期の初心を思いおこし、労働組合と協同事業団体が一体となって、国民の共感を呼ぶ社会運動や事業、地域に根ざした顔の見える活動を展開することで存在価値を高めなくてはなりません。

これからも「福祉はひとつ」という設立の原点を忘れずに、労働運動、協同事業団体、消費者運動、NPO・市民運動を結びつける“かすがい役”が労福協には求められています。

中央労福協は昨年結成60周年を迎え、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」を新しいビジョンとして掲げました。それは、市場や国家のみならず、私たち連帯・協同セクターが国民の暮らしを支え、社会改革の担い手として重要な役割を果たしていく社会です。

貴労福協が、これまでの活動で培われたネットワークを更に強固なものとし、勤労者の拠り所として益々発展していくことを心から祈念し、お祝いの言葉といたします。



徳島県知事

飯 泉 嘉 門

祝
辞

このたび、「社団法人徳島県労働者福祉協議会」が栄えある設立35周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴協議会は、昭和50年の設立以来、労働者の福祉の充実、向上を目指して、「ゆとり宣言フェスティバル」における様々なイベントの開催をはじめ、労働・福祉などの各種相談や若年無業者の自立支援などに積極的に取り組んでこられました。

また、地域における生涯福祉の更なる充実を図るため、「ライフサポートセンター」を西部に続いて、徳島中央に開設されるなど、人と人が助け合い、支えあうことができる社会の構築に多大のご貢献を賜っております。

これもひとえに、久積会長をはじめとする歴代会長、役員並びに会員の皆様のご尽力の賜であり、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

昨今、我が国においては、国際的な金融不安や急激な円高が「百年に一度の経済危機」を更に深刻なものとするなど、厳しい経済雇用情勢が続いており、本県においても例外ではありません。

本県におきましては、この未曾有の経済危機から一日も早く脱出するため、「切れ目のない経済雇用対策」に全力で取り組むとともに、「徳島の強み」を活かした新成長戦略をしっかりと推進しているところであります。

また、「新たな雇用と働きやすさとくしまづくり」を推進し、ライフステージに応じた多様な働き方の促進など、誰もが働きやすい労働環境の整備や労働者福祉の向上に積極的に取り組んでおります。

貴協議会におかれましては、このたびの佳節を契機として、更に充実した活動を進められ、本県の発展に一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、社団法人徳島県労働者福祉協議会の更なるご発展と、会員の皆様の今後ますますのご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げ、祝辞といたします。



徳島市長

原 秀 樹

祝 辞

社団法人徳島県労働者福祉協議会が設立35周年の節目を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴協議会の皆様方におかれましては、昭和50年の設立以来、長きにわたり、労働者福祉の推進や雇用・就労支援、さらには社会貢献活動など様々な取り組みを展開され、本県労働者の生活の安定と福祉の向上に大きく寄与いただいております。これもひとえに、貴協議会並びにご関係の皆様方の、並々ならぬご尽力の賜物であり、心から敬意を表する次第でございます。

近年、私たちを取り巻く社会環境は、人口減少・少子高齢化の進行、環境問題の深刻化、分権型社会の本格化など、様々な課題に直面しております。特に、長引く景気の低迷など先行き不透明な経済情勢により、労働者を取り巻く環境が依然として厳しい状況にある中で、貴協議会の熱意あるご活動は誠に心強い限りであり、皆様方の果たされる役割は今後ますます大きくなっていくものと存じます。

本市におきましても、緊急雇用・ふるさと雇用事業の実施による雇用の創出や、貴協議会の行う労働者福祉対策事業への支援、労働相談・職業相談の実施など、働く方々の福祉の向上を図る各種施策の充実に取り組んでおりますが、引き続き、国や県、関係機関との連携を深めながら、本市の産業・経済を担われる労働者の皆様方の働きやすい環境づくりを積極的に推進してまいりますので、貴協議会の皆様方におかれましては、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、社団法人徳島県労働者福祉協議会が設立35周年を契機とされ、今後、ますますご発展されますとともに、皆様方のご健勝・ご活躍を心からお祈り申しあげまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



日本労働組合総連合会
徳島県連合会 会長

小 松 義 明

「働くことを軸とする安心社会」の
実現に向けて

社団法人徳島県労働者福祉協議会が結成35周年を迎えるにあたり、連合徳島各構成組織を代表して心からお祝いを申し上げますとともに、今日まで徳島県労福協の運動に対してご尽力を頂きました諸先輩方をはじめ関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

徳島県労福協は1975年（昭和50年）5月13日に設立され、1986年3月（社）徳島県労働者福祉協議会としてスタートしました。この間、労働団体、福祉事業団体はもとより、国、徳島県、徳島市をはじめとする市町村、行政団体、市民団体、NPO等々との連携を強化するとともに、労働福祉事業の前進と労働者の生活向上のための活動に取り組んで来られました。

35年の歳月は日本の国の姿を大きく変貌させ、長期間に及ぶ経済の低迷は縮み志向を蔓延させ、社会の中に「先行き不安」「時代閉塞感」が広がっています。今、私たちに求められているのは、格差を是正し、公正な配分を実現し、日本の経済成長の恩恵が確実に労働者へ伝わるような経済社会を実現していくことであり、持続的な成長を確保することによって国民生活の不安を解消し、希望と安心をもって暮らせる社会を創造していかなければなりません。

徳島県労福協は、この間、ジョブサポート事業として、仕事なんでも相談室、ジョブとくしま無料職業紹介所、徳島県若者サポートステーション、とくしま就業支援センター、就業援助相談室、福祉サポート事業として、なのはな居宅介護支援センター、ヘルパーステーション、ライフサポート事業として、とくしま次世代育成支援センター等々の各種事業をはじめ、国、地方自治体等からの各種委託事業などを展開することにより、労働者福祉事業では、徳島県内はもとより、全国的にもその活動は大きく評価をされるまでに至っています。また本年4月からは、政府が取り組みを開始する「パーソナル・サポートサービス」モデル事業が予定されています。

このように徳島県労福協は、全国トップレベルの各種労働者福祉事業を展開することにより、既に“協同組合の父”と言われる賀川豊彦の「友愛・互助・平和」の精神に基づく「新しい公共」としての共助・共生のネットワーク創りを実践されています。

連合徳島の役割の一つとして、中小・地場企業における組織・未組織を問わない労働者への支援強化があります。そうした意味においても、労働者福祉の絆を固め、貧困の連鎖、無縁社会の連鎖を断ち、「人間の尊厳」「労働の尊厳」を第一として、人々が愛を分かち合い支え合う「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向け共に前進して行く決意と社団法人徳島県労働者福祉協議会の益々のご発展をご祈念申し上げお祝いのご挨拶と致します。



四国労働金庫 理事長

足達秀夫

「共生の福祉社会」実現を目指して

徳島県労働者福祉協議会設立35周年を心よりお祝い申し上げます。

労働者福祉の推進、雇用・就労支援、社会貢献活動を3本柱として、日頃の地域における労働者福祉活動に対し深く敬意を表します

労福協のシンボルマークは『人』という漢字をデザイン化したもので、文字どおり人と人との『和』を表しています。

労働者を取り巻く厳しい生活環境のもと、労働運動、協同事業団体、消費者運動、NPO・市民運動を結びつける“かすがい役”として、連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会の実現に向かってさらに前進されますことを期待しています。

現下の極めて厳しい雇用状況の下、安心した雇用環境づくりに労福協の果たすべき役割、期待は高まっています。今後益々の飛躍、発展を祈念しお祝いのご挨拶とします



全労済徳島県本部 本部長

川越敏良

35周年を記念して

徳島県労働者福祉協議会35周年を心からお祝い申し上げます。

労福協は、この間幾多の先輩諸氏にご奮闘いただき、また関係諸団体のご支援とご協力をいただき、活動の幅は質量ともに大きく拡大し、全国の模範といわれるように成長してきました。

関係各位のご奮闘に敬意を表しますとともに、労福協構成団体の立場から、心から感謝を申し上げます。

労福協結成以降の35年間は、勤労者・県民を取り巻く政治・経済・社会環境は大きく変化してきましたが、労福協が持つ意義や役割というものは些かも変化することなく、むしろなお一層の強化が求められる時代になっています。

全労済は、協同組合として、そして労福協の一員として、「連帯」や「絆」が重視される社会の建設に向け、引き続き取り組みを強化します。

労福協の一層の発展を心から祈念します。